「過去完了形の語法（2）
——動作の時間的位置づけについて」

加　島　康　司

1. 過去完了形の本質

拙論（1993）では，過去完了形と過去を表す時間副詞 ago，yesterday との共起関係について論じたが，本稿では，過去完了形のもつ問題点を別の観点から論じてみたい。

時制を考える場合，視点をどの時点に置くかが重要だが，過去完了形の場合，基準点は「過去の特定時」ということになる：

（1） She had just gone out when I called at her house.

（2） I had never been spoken to in that way before.

（3） She was thirty-one years old and had been married for ten years.

（4） Mrs. Wilson was a widower. Her husband had died ten years before.[1)]

例文（1）は過去のある時点までの動作の完了・結果を表す。基準点は「私が彼女の家を訪ねた時」であり，彼女はその時すでに外出をしていたことを意味している。例文（2）は，基準点が明示されてはいないが，文中の副詞 before から，基準点は「私」が話しかけられた時であり，その時点までの経験を意味している。例文（3）の基準点は，彼女が31歳の時であり，それまでの状態の継続を意味している。このように過去完了形は過去のある時点までの，完了・結果，経験，継続を表し，更に，例文（4）が示すように，過去のある時点よりも時間的に先行して起こった事

柄を表す用法がある。この場合，ウィルソン夫人が未亡人だった時が基準点で，そこから10年遡った時点で起こった事柄が述べられている。

英文法で過去完了形を説明するとき，上記の4用法が基本的なものである。ここで共通していることは，2つの過去の出来事の時間関係を述べるとき，一方が基準点となり，他方がそれ以前の動作・状態と位置づけすることである。

しかし，英文を読んでいると，論理的に上記の考え方では説明できない過去完了形の用例が見つかる。過去完了形を「ある過去の時点の出来事よりも以前に起こった出来事を表す」ものとドグマ的に決めつけていると，次の例の過去完了形は矛盾をきたし，説明できなくなる：

(5) Kevin decided to go upstairs and wake his parents. If they wouldn't let him stay up late at night, there was no way he'd let them sleep late in the morning.

A moment later Kevin stepped into his parents' bedroom. The bed was empty and unmade.

"Mom? Dad?" he called. No one answered.

He looked in the bathroom and back out in the hall.

"Hey, where are you guys?" Again, no one answered.

Kevin decided to ask Buzz. He'd know where their parents were. But Buzz's bedroom was empty. So was Megan's and his own. Soon Kevin <u>had worked</u> his way through the whole house. Every room was empty.

[エンカレッジ，58][2)]

一般的に，複数の動作が順に行われる場合は，過去時制を反復して使用する。というのは，最初の動作から最後の動作まで $A_{(1)} \rightarrow A_{(2)} \rightarrow A_{(n)}$ の順で時間的に現在に近づいていくという解釈を我々は行うので，時制を使い分けて各動作の時間的差異を表現する必要はないからである。そうする

と，上記の例では，複数の動作が時間の流れとともに行われているのに，最後から二番目の文＝ Soon he had worked his way through the whole house. だけ，どうして過去完了形が使用されているのだろうか。この文で描写された動作が他の動作に時間的に先行していたと解釈することはどうしても出来ない。むしろ，それまでの動作に後続する出来事が描写されていると解釈しなければならない。

この用例が示しているように，過去完了形には，一般的な用法，つまり，過去の特定時を基準点にして，それ以前の動作・状態を表す，というだけでは説明できない用法がいくつかあるようだ。以下，本稿では２つの例外的用法について考察したい。[3)]

2.1. 動作の瞬間的終了を示す場合：「すぐに～してしまった」

例（５）が示すように，基準点となる過去に先行する出来事ではなく，後続する出来事に対して，どうして過去完了形が使用されるのであろうか。

Jespersen (1931, 1933) は，過去完了形が「特別に生き生きとしたやり方で」単純な過去時制の代わりに使われた用例として次の文を例示し，パラフレーズしている：

（６） I had soon told my story. ＝I told my story, and that did not take long.[4)]

Poutsma (1926) は，次のように述べている：

> Sometimes the pluperfect seems to have been used in preference to the preterite as representing the facts described in more lively colours than the latter. [5)]

しかし，こうした文体的理由以上に，完了形が持つ「動作の完了性」を強

調したいがために過去完了形が使われているのではないかと思われる。動作がただ「終わった」というより，「すぐに終わってしまっていた」というニュアンスをだすためには，完了形という形式が適しているのではないかと思われる。従って，例（5）の下線部を含む文は「すぐに彼は家中を探し終えていた。」という意味であり，過去完了形が使用されているからといって，それ以前の文で描写されている動作より，時間的に先行しているわけではない。むしろ，時間的には現在に一番近いのである。こうした用法には，いつもと言うわけではないが，一種のマーカー，この場合は副詞の soon，が含まれることが多い。

大江(1984)では，この過去完了の用法について，「(ふと) 気がついたら～していた」という含意が算定されると述べている。[6)]

この用法は英文を読んでいると，比較的，よく見受けられる。以下，具体例とともに，解説をしたい。

（7） Dr. Asseyev smiled and lowered his voice. "Later we were all moved to a different camp," he said, "and do you know —— I found Michael and Peter there. And within a few days, we had organized the plot all over again."

[Russian, 62]

(アセイエフ博士は微笑むと，声を下げた。「その後，我々はみんな別々の収容所に移されたんじゃ。」と彼は言った。「すると，なんと，わしはマイケルとピーターにそこで会ったんじゃ。そして，2～3日のうちに，もう一度あの計画を立てていたんじゃ。」)

この例では，アセイエフ博士とマイケル&ピーターとの出会い→計画の立案，と出来事は進み，過去完了形が使われていても，計画の立案が出会いに時間的に先行しているわけではない。ここでは within a few days（2～3日のうちに，2～3日もたたないうちに）がマーカーとなって完了性

を引き出している。

(8) Paige's uncle's words stunned her. 'I'm sorry to tell you this, Paige, but I just received word that your father was killed in a native uprising.'

Her whole world had been shattered in an instant.

[Nothing, 76]

(叔父の言葉はページを驚かした。「ページ，こんなことを君に伝えるのは残念だが，お父さんが部族の暴動で殺されたという連絡を受け取ったよ。」彼女の全世界が一瞬のうちに打ち砕かれてしまっていた。)

叔父が発言したことは過去時制で書かれていて，最後の文は過去完了形で書かれているが，彼女の世界が打ち砕かれたことが叔父の発言に時間的に先行しているわけではない。叔父の発言によって，彼女の世界が打ち砕かれたのが出来事の流れである。ここでは，in an instant がマーカーになって，完了性を示している。

(9) Paige was terrified. 'They're going to kill us!'

Her father took in her arms. 'They won't harm us, darling. We're here to help them. They know we're their friends.'

And without warning, the chief of one of the tribes had burst into their hut...

[Nothing, 39]

(ページは怖かった「彼らは私たちを殺すんだわ。」彼女の父は手を取った。「彼らは私たちに危害を加えないよ。私たちは彼らを助けるためにここに来ているんだ。私たちが友達だと知っているよ。」そして，警告もなく，ある部族の長が小屋の中に

入ってきたのだった...)

この例では，時間を表すマーカーはないが，without warning が動作の瞬間的終了を示す表現となっている。

以下の例 (10) (11) (12) には，そうしたマーカーはないが，ここで使われている過去時制と過去完了形の関係も，出来事の時間的差異を表す一般的用法ではなく，やはり，完了性を強調する用法であることは文脈から判断できる。

(10) "Four of us Russian doctors in the camp took an oath after the war that we would find a way to thank those Americans. I am getting old now. This is my chance."

"Because of you," he said, "if these men are still alive they will know I remember ——— this dentist who loved them, and whom they did not betray."

He stopped. He exaled deeply, handed me the list of names and slumped back on the bench. After 43 years Nikita Zakaravich Asseyev had just fulfilled an oath.

[Russian, 63]

(「収容所にいた我々4人のロシア人医者は戦後，あのアメリカ人達にお礼を言う方法を見つけると誓い合ったんじゃ。もう，わしは年をとってきた。これがチャンスなんじゃ。」「君のおかげで，もしこの男達が生きていれば，彼らには分かるだろう。私が覚えていたことを。彼らを愛し，彼らが決して裏切らなかったこの歯科医がね。」彼は話すのをやめた。彼は深々と息を吐き出すと，私に名前が書いてあるリストを渡し，ベンチに寄りかかった。43年の後，ニキタ・ザカラビッチ・アセイエフはようやく誓いを果たしたのだった。)

(11) 'Paige, I'm desparate to see you. If I can get out for a few days, could you meet me in Hawaii?'

There wasn't the slightest hesitation. 'Yes.'

And they had both managed it. [Nothing, 77]

(「ページ，どうしても君に会いたいんだ。もし，2，3日抜け出すことが出来るなら，ハワイで会ってもらえるかい。」ためらいは少しもなかった。「いいわ。」そして，二人はそれをやってのけたのだった。)

(12) It took Paige a moment to regain her composure. She hurried along to catch up with the rest of the group. As they moved along the corridor, Dr Barker snapped. 'You'll have between thirty and thirty-five patients to care for every day. I'll expect you to make detailed notes on each one of them. Clear?'

They wre murmurs of 'Yes, sir.'

They had reached the first ward. [Nothing, 174]

(ページが落ち着きを取り戻すのにしばらく時間がかかった。彼女は急いでグループの残りの者に追いついた。廊下を進みながら，ベーカー博士はきつく言った。「君たちは一日で30人から40人の患者を診ることになる。その一人一人について詳細な記録を取ってもらいたい。いいかな。」彼らは「はい，分かりました。」とつぶやいた。彼らは最初の病棟に着いていた。)

2.2. 動作の未完了を示す場合：before ＋ 過去完了形

接続詞 before を用いた従属節中の過去完了形も，一般的な過去完了形の用法では説明できない問題を生む。次の例で動作の時間関係を考察してみよう：

(13) In the 1930's, long before the Europeans had constructed suspension bridges on such a huge scale, the Americans spanned the Golden Gate, the entrance to San Francisco harbor, with a mighty suspension bridge.

[Background, 51]

この場合，ヨーロッパで吊り橋が架けられた時点とアメリカで金門橋が架けられた時点とでは，どちらが時間的に先行しているのだろうか。ヨーロッパの吊り橋については過去完了形が用いられ，アメリカの場合には過去時制が使われている。従って，形式から見ると，ヨーロッパの吊り橋の方が先に架けられたように思えるが，実際は，アメリカの吊り橋の方が先に架けられたのである。

Jespersen (1931) は，過去における2つの継続的出来事の関係を表す言語表現として以下の4つの文を挙げている。「私が彼を見た」ことをX，「彼が私を見た」ことをYとし，両者の時間関係を次のように図示している：

————X————Y———— (now)

(14) I had seen him before he saw me.

(15) I saw him before he had seen me.

(16) He saw me after I had seen him.

(17) He did not see me till I had seen him.[7]

時間的にXの方がYに先行するので，Xに対して過去完了形，Yに対して過去時制を使用するのが通常の用法である。そうすると，上記の例文(14)(16)(17)は論理的であるが，例文(15)の場合，時間的に現在に近いYに対し過去完了形が使われ，時間的に先行するXに対して過去時制が使われている。表面的に見ると，あたかも2つの動作の時間関係が逆転したかのような印象を与え，矛盾した表現になっているかのようである。

Quirk et al. (1985) も，同じ例文を挙げている：

(18) I saw him before he had seen me.

この文は，一見逆説的に思えるが，それは，この場合の before 節は nonfactual であり，その結果，before 節中の行為はなされなかったと説明している。そして，'He did not get a chance to see me, because I evaded him.' とパラフレーズしている。[8)]

before 節中に過去完了形が使われた場合も，過去時制との時間的差異を示す用法ではなく，完了形の持つ特性，即ち，「動作の完了性」が強調される。つまり，例文 (18) で説明すると，彼が私を見るという行為が「完了」する前に，私が彼を見ていたということになる。つまり，Quirk et al. のパラフレーズの通り，過去完了形が使用された従属節は，形式上，肯定文であるが，意味的にはその動作は否定されているのである。Hornby (1975) のパラフレーズがその点を明瞭に説明しているので，引用する。叙述が肯定と否定に分かれていることに注意されたい。

(19) The bell rang before we had finished our work.

(20) When the bell rang, we had <u>not</u> finished our work.[9)]

つまり，例文 (19) は否定辞が存在しないにもかかわらず，「我々が仕事を終えないうちに，鐘が鳴った」と訳されるのである。だから，例文 (13) の訳は，「1930年代に，ヨーロッパの人々がそのような大きな規模で吊り橋を<u>建設しない</u>うちに，アメリカ人達はゴールデン・ゲイト，サンフランシスコ湾への入り口に，強力な吊り橋を架けたのだ。」となる。

3. 結　論

本稿では，過去完了形と過去時制，それぞれが表す出来事の時間関係から，過去完了形の例外的用法について考察した。一般的に，過去の 2 つの

出来事を現在から見た場合，それをどのように捉えるかという視点によって，それに適した時制形が選択される。もし，文中に過去時制と過去完了形の両方が使われていれば，2つの動作・状態の時間的差異が表されているものと解釈するのが普通である。しかし，過去完了形が使われているとしても，過去の出来事に先行した事柄を述べているのではない場合がある。本稿では例外的な2つの用法について例を挙げて解説した。ともに，完了形という形式から生じた用法と思われるが，この用例が多数見つかるという事実は，過去完了形といえば，基準点となる過去の出来事に先行する出来事を表すものという理解だけでは不十分であることを示している。英文を読んでいて，過去の2つの動作・状態の時間的関係を混乱させないため，また，英文の解釈を誤らないために，この過去完了形の統語現象についての知識を持つことが必要かと思われる。

注

1) 江川泰一郎『英文法解説』(東京：金子書房，1991年) 242-243.
2) 例文の出典について：①出典は例文の後に略称を用いて示してある。[ ] 内の最初が作品名，続く数字が頁を示す。作品のフルネームは参考文献一覧を参照せよ。②下線はすべて筆者が施したものである。
3) 本稿では，グリーンバウム＆クワークが『現代英語文法』92-93 で，「態度表明の過去完了」，「仮想の過去完了」と呼んでいる用法は省く。前者は，時制を現在時制から過去時制に，更に過去完了形し，丁寧度を高めてゆく用法である。2つの過去の出来事の時間的関係づけをする用法とは異なる。形式上は過去完了形であっても，現在の気持ちを表す用法である。時制と丁寧表現の関係については拙論(1973)でふれているので，参照されたい。後者は，いわゆる，仮定法過去完了の用法のことである。
4) O. Jespersen, *A Modern English Grammar on Historical Principles. Part IV* (London: George Allen & Unwin, 1931) 83, *Essentials of English Grammar* (London: George Allen & Unwin, 1933) 247.
5) H. Poutsma, *A Grammar of Late Modern Eglish, Part I* (Groningen: P. Noordhoff, 1926) 283.
6) 大江三郎『英文構造の分析』(東京：弓書房，1984) 172の用例は以下の通り：

He pushed the door a little further and a strong familiar smell

which he could not for the moment identify mingled with the foggy air. Marcus hesitated. Then he thrust his head forward and took a step. The next instant he had fallen headlong in through the doorway. 最後の文が，The next instant と始まりながらも，次は過去完了形になっている点に注意。

7) Jespersen, *A Modern English Grammar Part IV*. 81-82. XとYの両方に対して過去時制を使った例文も挙げられているが，本稿は過去時制と過去完了形の関係を論じているので，省略している。

8) R. Quirk et al. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. (London: Longman, 1985) 1020.

9) A. S. Hornby, *Guide to Patterns and Usage in English* (London: Oxford University Press, 1975[2]) 94. 原典では (20)が先に挙げられているが，本稿では論旨を明確にするため，(19)と順序を入れ替えている。なお，下線は筆者。

参考文献

安藤貞夫『英語教師の文法研究』東京：大修館書店，1983年

Bryan, W. F. "The Preterite and the Perfect Tense in Present-day English" 中條和夫訳『現代英語の過去と完了』英語学ライブラリー (37) 東京：研究社，1959年

Close, R. A. *A Reference Grammar for Students of English*. Harlow: Longman, 1975.

Declerck, Renaat. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Tokyo: Kaitakusha, 1991.

江川泰一郎『英文法解説－改訂三版－』東京：金子書房，1991年

Greenbaum, S. & Randolph Quirk. *A Student's Grammar of the English Language*. 池上嘉彦他訳『現代英語文法大学編　新版』東京：紀伊國屋書店，1995年。

細江逸記『動詞時制の研究　新版』東京：篠崎書林，1973年。

Jespersen, O. *A Modern English Grammar on Historical Principles*. Part IV. London: George Allen & Unwin, 1931.

—— *Essentials of English Grammar*. London: George Allen & Unwin, 1933.

加島康司「英語時制の問題点」佐藤泰正編『文学における時間』東京：笠間書院，1973年。

——「過去完了形の語法——時間副詞("ago","yesterday")との共起関係について」 梅光女学院大学英米文学会『英米文学研究第29号』東京：前野書店，1993年。

木下浩利『英語の動詞－形とこころ－』福岡：九州大学出版会，1991年。

小西友七・岸野英治『現代表現英文法』東京：英宝社，1988年。

Leech, Geoffrey N. *Meaning and the English Verb.* London: Longman, 1987[2].

水鳥喜喬・岡田啓・西村道信『大学英文法入門』東京：英宝社，1987年。

大江三郎『動詞（I）』講座・学校英文法の基礎第四巻　東京：研究社，1982年。

——『英文構造の分析ーコミュニケーションの立場から』東京：弓書房，1984年。

Palmer, F. R. *A Linguistic Study of the English Verb.* 安藤貞夫訳注『英語動詞の言語学的研究』東京：大修館書店，1972年。

Poutsma, H. *A Grammar of Late Modern English.* Part II. Groningen: P. Noordhoff, 1926.

Quirk, R., Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik. *A Comprehensive Grammar* of the English Language. London: Longman, 1985.

Swan, Michael. *Practical English Usage.* Oxford: Oxford University Press, 1980.

Thomson, A. J. & A. V. Martinet. *A Practical English Grammar.* Oxford: Oxford University Press, 1980[3].

植木五一『動詞（上）』現代英文法講座第三巻　東京：研究社，1958年。

安井稔『英文法総覧』東京：開拓社，1982年。

例文は以下の作品から引用した。[　] 内は本文中で用いた略称。

福武書店編『エンカレッジ英語』1994年9月号　岡山：福武書店，1994年［エンカレッジ］

Kuralt, Charles. "The Russian Who Never Forgot." *Reader's Digest* January, 1991. Hong Kong: Reader's Digest Association Far East Ltd., 1991. [Russian]

Musman, Richard. *Background to the USA.* London: Macmillan Publishers, 1982. [Background]

Sheldon, Sidney. *Nothing Lasts Forever.* London: Harper Collins Publishers, 1995. [Nothing]